

全日本F3選手権 第15戦&第16戦 SUGO 専有走行レポート

2009年9月25日(金)

明日から行われる最終ラウンドを控えた9月25日、スポーツランド SUGO を舞台に、恒例の金曜練習走行が行われ、熾烈なタイトル争いが展開されている C クラスでは、6 ポイント差でトップの井口卓人を追う PETRONAS TEAM TOM'S のチームメイト、マーカス・エリクソンが総合トップタイムをマーク。HFDP RACING の山本尚貴が既にタイトルを手中に収めている N クラスでは、チームノバの佐藤公哉がトップタイムを奪った。

ところどころ雲に覆われた空ながらも、基本的には爽やかな秋晴れとなったみちのく菅生。気温 23℃、路面温度 33℃のドライコンディションで午前 9 時 45 分からスタートした午前のセッションでは、開始早々左フロントのトラブルに見舞われた ACHIEVEMENT by KCMG のアレキサンドレ・インペラトーリが最終コーナーでマシンを止めたため、いきなりの赤旗中断に。しかし、その後大きなアクシデントはなく各陣営は走行を続け、終了間際にナウ・モータースポーツの岩崎祐貴が最終コーナーでクラッシュ、シーエムエス モータースポーツ プロジェクトの野呂立がグラベルストップとなるものの、残り数分だったことからそのままセッションは終了することとなった。その結果、トムスの国本雄資が 1 分 15 秒 357 で午前のトップに立ち、これに井口、エリクソン、スリーボンドの安田裕信が続くオーダーに。N クラスでは佐藤が 1 分 17 秒 529 でクラストップを奪い、チームメイトの千代勝正も僅差の 2 番手。王者となった山本が 3 番手につけた。

午後のセッションは、やや日差しが強まり、気温 26℃、路面温度 41℃と暑くなった午後 2 時 15 分から。残念ながら午前のクラッシュによるダメージが大きく、マシン修復のため岩崎はこのセッションの走行を見送ることとなり、合計 15 台のマシンがセッションに臨んだ。このセッションでは、開始 35 分に S 字コーナーの立ち上がりで野呂のマシンがストップし赤旗となったほか、残り 10 分となった午後 3 時 05 分に SP コーナー立ち上がりで安田がタイヤバリアにクラッシュしたため、終盤に各マシンがニュータイヤでのアタックを始めたところで 2 度目の中断となるなど、後半はやや荒れ気味の展開に。しかし、残り 8 分で再開された終盤のセッションに 1 分 14 秒 296 という圧倒的なタイムを叩き出したエリクソンがこのセッションを制するとともに、この日の総合トップに。2 番手には 1 分 14 秒 777 をマークした国本、3 番手には 1 分 14 秒 919 で井口が続き、総合 4 番手はル・ポーセの嵯峨宏紀という結果に。

「オートポリスは非常に難しいサーキットで手を焼いたが、この菅生はチャレンジングだし面白いコース。午後は納得の行くプッシュができたし、タクト（井口）に先行されているとはいえ、タイトルの可能性がある以上最後まで諦めずに戦う」とエリクソンは自信を見せる。

一方 N クラスでは午前が続いてトップを奪った佐藤が 1 分 16 秒 522 にまでタイムを伸ばし総合クラス首位に。「既にタイトルは決まってしまったけれど、普段どおりに精一杯のレースを戦うだけ。この最終戦でチームノバの 2 台が好調なスタートを切れたのは、やはりチーム力だと思うが、ここまでドライで勝てていないので今週末はダブルポールを獲って連勝を狙いたい」と佐藤。午前と同じく 2 番手に千代が着け、3 番手は小林崇志となったが、今回エイムスポーツから全日本 F3 デビューを飾った山本龍司はクラス 5 番手に。山本は残念ながらエンジントラブルに見舞われてセッション序盤でマシンを降りることとなっている。

果たして、C クラスのタイトルを手中に収めるのは一体誰か？ いよいよ今週末で今シーズンの雌雄が決することとなる。



▲ 総合トップタイムの M. エリクソン (PETRONAS TOM'S F308)



▲ N クラストップタイムの佐藤 公哉 (NDDP EBBRO)